

東京「駆け足めぐり」(1)

都庁の仕事をすませ、地下鉄の1日乗車券を買って駆け足で「観光スポットめぐり」をすることにした。

まずは大江戸線に乗って「牛込神楽坂」に向かった。前にレポートにも書いたが、神楽坂の街並みと近くの高層マンション、景観破壊に興味があった。今回再び訪ねたのは、西村幸夫編著『路地からのまちづくり』に触発されたことによる。この本は西村教授が12月の講演会で紹介したもので、さっそく手に入れて読んでみた。「しつらえの路地の魅力」として神楽坂も紹介されており、もう一度歩いてみたくなった。



神楽坂の通りから横丁に入ると、

いろいろな路地

に出会う。東京のしつらえの路地に欠かせないのが黒塀であり、足元の敷石であるピンコロ石という。先の本でも、「しつらえの路地は黒塀と厳肅な石畳と狭さゆえに奥へ奥へと人を誘い、奥に秘めた非日常的なものへ想像力を駆り立てる装置になっているのだ」と述べている。実際に路地を歩いていると、そんな気分になった。しかし残念なことに、路地を歩いていると、たえず目に入るのが例の高層マンションである。せっかくの非日常的なものへの想像力が台無しだ。



神楽坂をあとにして、「表参道ヒルズ」に向かった。

これは昨年2月に開業したもので、なかなか洒落た外観である。配布されていたチラシによると「ハイエンドなファッションと様々なカルチャーを融合させ、表参道をより大人の街へと変貌させてきた」という。ここは同潤会青山アパートがあったところで、森ビルが安藤忠雄の設計により再開発したものだ。同潤会アパートも風情があったが、このヒルズの今後にも注目してみたい。

(2007年2月24日 記)